

# れんけい

第22号



## ごあいさつ

昭和から平成への改元と比べればたいへん穏やかな、平成から令和への改元から、早いもので8ヶ月が経過しました。さて、今年を和暦ではなく西暦で書くと「あっ！」と気付くのですが、実は2010年に発足したACFは、今年の3月26日に発足10周年を迎えます。そんなアニバーサリーイヤーとなる本年も、ACFをどうぞよろしくお願ひ申し上げます。

## 未来の起業家育成事業

### シンガポール海外視察研修に向けて 今年度の参加者が決定、事前研修がスタートしました！

学生の起業家精神を育むことを目的とした、未来の起業家育成プログラムが今年も始まりました。

まず最初に、このプログラムの説明と実際に起業した方々のストーリーを聞いてみよう！というキャリアディスカバリーセミナーが、10月、11月県内4カ所で行われました。

次にキャリアディスカバリーセミナーに参加してプログラムに興味を持った学生が、11月16日、郡山市で行われたキャリアディスカバリーワークショップへ参加。全体で68名の参加者の中から、34名が郡山へ集いました！

ここでは、自分が解決したい問題は何か？をグループ内で発表し、フィードバックを受けて、自分のアイデアに磨きをかけていきます。

他の人と意見を交換し合うことで、新しい視点や気づきを得られた様子の学生たち、最後の全体発表では6人の枠を15人が奪い合うほど会場の熱が上がりました。選ばれた6人のプレゼンテーションは、緊張しながらも、自分のアイデアをみんなに届けたい！という思いがひしひしと伝わってきました。

そして、ワークショップの参加者の中から、20名が応募し、選考を終えて9名の学生がシンガポール視察研修への切符を手に入れました！

12月には、選ばれた9名の顔合わせが行われ、自分が考える課題について、事前にヒアリングした結果をもとにアイデアの練り直しが行われました。

2月の渡航まであと少し、どのようなアイデアをプレゼンテーションにまとめていくのか楽しみです！

11月16日キャリアディスカバリーワークショップ



ワークショップでは県内の大学生が郡山に集まりました



自分のアイデアを発表したいとたくさんの手が挙がります

12月14日海外研修事前研修

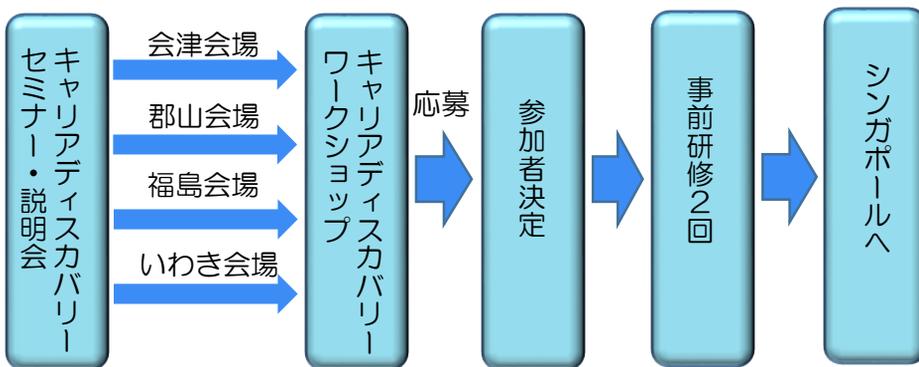


フィードバックを受けて自分のアイデアに磨きをかけます



講師との1対1の話し合いでさらにアイデアを具体的に

### シンガポール海外視察研修までの道のり



森林自己学習支援事業

桜の聖母短期大学が只見で活動  
古本と森を交換する「たもかく」の取組と、ブナの森

令和元年11月4日(月)、5日(火)、桜の聖母短期大学のキャリア教養学科1年で図書館司書課程履修者8名のグループによる、森林自己学習「只見の森と本たもかくプロジェクト」の活動が南会津郡只見町で行われました。

これは、古本と森林を交換する取り組みを行う、只見町の「株式会社たもかく」(以下たもかく)を訪問し、どのようにこのユニークな取り組みが始まったのかを調査するのが主な目的です。たもかく代表の吉津氏によると、読んでしまっても捨てきれず、都会暮らしの狭い部屋をますます狭くしている本を集めて田舎に本屋ができれば…、そんな思いで只見の森と古本の交換を1994年1月から行っているそうです。たもかくの敷地内には、古書をメインとした「うらない館」、新書・文庫の「しんぶん館」、コミック・単行本の「コミたん館」などユニークな名前の書庫があり、書庫の中には所狭しと本が並んでいました。これらの書庫には合計で150万冊の本が所蔵してあるそうです。これは福島県立図書館の95万冊(図書館及び調べ)よりも多い数です。びっくりですね。

実際に本と森を交換しようということで、段ボール3箱分の本を預けてきました。本やCDを定価の10%で評価、700円でつき只見の森1坪と交換できるとのこと、どれぐらいの面積の森と交換になったかは、2月1日の成果報告会にて!

今回はたもかくの他に、只見の森(ブナの森)を見学しました。建材には向かず薪材にするしかないと一時は切り倒されてしまったブナですが、山と川に囲まれた土地柄故に雨が降ると度々洪水被害に見舞われていた只見では、後に水を蓄える緑のダムとしてブナの森が見直され、今でも大切にされていることが分かりました。

令和元年度の森林自己学習支援事業の成果報告会を郡山女子大学にて開催いたします。参加ご希望の方はACF事務局までご連絡下さい!



たもかく代表吉津氏にインタビューする学生



ブナの森は地面がらからか

成果報告会は2月1日(土) 13時30分から

子どもと青年の異世代交流事業

チャレンジ親子探検隊イベントを開催しました!

～フォレストパーク秋のお宝探し～

令和元年11月17日(日)、大玉村のフォレストパークあだたらで、福島県の子どもと青年の異世代交流事業の一環で学生が企画・運営を行うイベントが開催され、30組104名の親子が参加しました!

このイベントは郡山女子大学短期大学部の学生と福島学院大学短期大学部の学生が準備してきたものです。

この取組は今年度で2回目ですが、昨年度の経験者は誰もいない中で、準備は半ば暗中模索。前日から準備のため会場に泊まり込むも、荒天のため実質的な設営は当日朝から。小道具等の準備もほぼ徹夜で行ったものの、いろいろと苦労はあり、不安と緊張のまま開会を迎えます。

そんな学生たちの苦労も露知らず、開会式で来場する子どもたちは各コーナーの説明が終わるとすぐに、親子探検隊出発です!

一番初めは、一か所に参加者が集中しないように、あらかじめそれぞれのコーナーへ割り振り、その場所まで学生が誘導するなど来場者に分かりやすいような工夫がされていました。

今回の自然遊びは4つ。スタンプラリー形式でそれらのコーナーを回ります。

- ・外遊びの定番、すべてあそぼう そりあそび
- ・森の中でミッションゲームに挑戦、ネイチャービンゴ
- ・自然の中の素材でアートを楽しむ、ネイチャークラフト
- ・火おこしに挑戦、焚き火

どのアトラクションも熱心に遊ぶ子どもたちの姿が見られました。学生たちは子どもだけでなくご両親とのやりとりからも多くのことを学んでいるようでした。

学生の皆さん、前日からの準備の苦労は報われたでしょうか?

今後、保育者として社会へ出て行く学生たちには、是非今回の経験を活かし、自然遊びの楽しさを子どもたちに、またその意義を周りの保育者や保護者に伝えていく人材になってほしいものです。



今年はこのメンバーで頑張りました!

## ふくしま ミニキッズ博

### 南相馬市と福島市でふくしまミニキッズ博を開催しました！

7月に行われたふくしまキッズ博の縮小版として、11月と12月に南相馬と福島にてミニキッズ博が行われました。引き続き福島学院大学と桜の聖母短期大学の学生が学生事務局として頑張りました！そんなキッズ博に携わる学生を見て、自分もキッズ博のボランティアをやってみたい！と新規で参加する学生も現れました。

ミニキッズ博での創作遊びは、

11月10日(土)の南相馬会場では、楽器づくりとぶんぶんごま。

11月30日(日)の福島さんどパーク会場では、砂遊びやボールプール遊び。

12月21日(土)はツリー作り、メッセージカード作り、楽器作りをそれぞれ行いました。

今年は台風19号の影響で土日に補講があったり、保育実習で忙しい中、福島学院大学と桜の聖母短期大学の学生で助け合ってやる事ができました。

特に12月のミニキッズ博、大学生のブースは大賑わい！クリスマス直前ということもあり、ツリー作りが大人気で途中で材料がなくなってしまうほどでした。自分の好きな絵を描いたり、デコレーションしたり、世界に1つしかないオリジナルの作品を作って嬉しそうに帰って行く子どもたちを見ていると、自然と周りにも笑顔がこぼれます。

キッズ博のボランティアに興味がある方は、是非来年ご参加お待ちしております～！



南相馬会場、楽器作り



さんどパークでは砂遊び！



クリスマス直前のミニキッズ博、トナカイやサンタさんに扮装です



## 高大接続

### 安積黎明高校の探求学習にACF会員校の先生が協力

令和元年12月4日(水)、郡山市の安積黎明高校にて「『市政への提言2019』提言発表会」が行われました。これは課題探求学習として昨年度から始まった授業で、地元である郡山市の課題に高校2年生が取り組むというものです。ACFとしては今年度から関わり始めました。課題について専門家の意見も取り入れた内容で課題を解決したいということで、5月8日に日本大学工学部、奥羽大学、福島大学の教員が安積黎明高校を訪問。「自分はこの様な研究者です」「こんな質問なら答えられますよ」という説明を行い、その後はメール等で高校生の質問に答えるなど、探求学習のアドバイザーとして活躍していただきました。

市政への提言は第1分科会から第10分科会に分かれ、各グループ5分の持ち時間で郡山市職員を目の前に提言を発表します。内容は「郡山の商業発展について考えよう」、「ロボット産業を切り口とした産業復興」、「郡山の農産物を活かした高機能食品の開発」、「小中学生が放射線について学習できる環境作り」、「郡山市街地の都市型水害を防ぐ方法」を考えるなど多岐にわたります。

発表後にはアドバイザーを務めた先生方からのフィードバックをいただきます。どのチームにも「よく調べましたね」「素晴らしい」という声が多く聞かれました。

時には厳しい提言もありましたが、郡山市職員の方は高校生たちの熱い思いを受け止め、改善していかなければという思いに駆られたようです。

この探求学習は今後も続く予定とのこと、次回も楽しみです！



## 大学見学会

### 郡山女子大学、日本大学工学部を福島県中小企業家同友会が訪問

令和元年9月30日(月)、郡山女子大学と日本大学工学部にて、昨年度に引き続き福島県中小企業家同友会の皆様をお迎えし「大学見学会」を行いました。

大学に入りがある私たちからすれば当たり前ですが、普段大学とのかかわりがない方にとっては、大学ってどんなところだろう？今の学生はどんな子が多いの？と気になるところ。この企画はそんな福島県中小企業家同友会の会員である社長さんたちの声から始まった見学会です。

それぞれの学校で、先生や就職支援の担当者のお話を聞き、日本大学工学部では実験施設の見学と、現役大学生と向かい合ってぶっちゃけトークをする場面も。「就職先は地元なのか？」「休みと給料はどちらが大切か？」「自分が経営者になってみたいと思うか？」など、率直な経営者としての疑問を学生にぶつけていました。学生にとっても会社の社長と直接話せる機会は貴重な体験になったのではないのでしょうか？

この見学会の実施にあたり、入念な調整とご準備をいただいた郡山女子大学と日本大学工学部の皆様に、あらためて御礼を申し上げます。ありがとうございました。



郡山女子大学にて



ロハスの家を見学



現役大学生とのぶっちゃけトーク

## 今後の予定

- 【未来の起業家育成プログラム(シンガポール視察研修)】  
 1月18日(土) 海外研修事前研修2回目 (郡山ビッグアイ)  
 2月25日(火)～3月1日(日) シンガポール視察研修  
 3月14日(土) 海外視察研修事業実施報告会 (郡山ビッグアイ)
- 【森林自己学習支援事業】  
 2月1日(土) 森林自己学習支援事業成果報告会 (郡山女子大学)



## ACF事務局から

### インターネットが便利になる傍らで ACF事務局研究員 岩本正寛

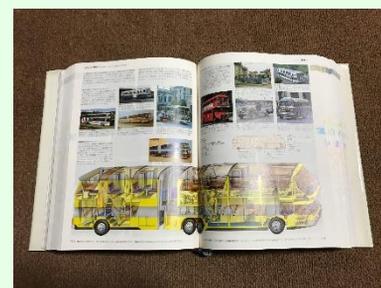
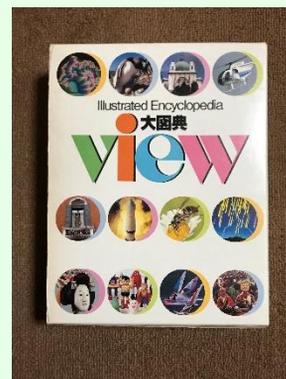
いつしか「ググってみてよ」「ググればわかるから」と、インターネットで検索することを促せば、相手に知ってもらいたいことを的確に伝えられる時代になりました。しかし私は電子辞書は苦手、お金と場所さえあれば百科事典を買い揃えたい、そんな古風な人種。つつい他人に対しては「ググれ」と気安く言うくせに、そう言われると「なんか違うんだよなあ」と手段に違和感を感じるところがあります。

そんな私の人格形成に間違いなく影響したと思うのが、1984年に講談社が発刊した「大図典view」という事典です。わからない方はググってみてください。子どもの読むものではないのですが、茶の間に置いてあったこともあって、絵本を卒業した年頃から、ページが破れたり、綴じ目が解れたりするぐらい夢中になってイラストや写真を眺め、漢字がある程度読める年頃になったら、近未来を感じるさまざまな最新技術に夢を膨らませました。

その美品を令和の世になった今年の正月明けに、某オークションサイトを通じて購入することができ、昔日を思い起こしながらばらばらとページをめくっています。すると、ふと気になることがあります。子どもの好奇心や夢を育むのに、インターネットにつながる端末を与えるだけでこうした事典の代役になるのかな、やっぱり「調べたいこと」の周辺部、なんならそこから外れたことまで同時に知り得る紙の媒体の強みって、あるのではないかな、ということです。

そんな具合に、事典特有の薄い紙のぬめり感を指先に覚えながらページをめくり、あの日のように好奇心を楽られつつ、これからの我が国、ひいては世界の学術の発展を憂いでしまう冬の日でした。

そうそう、この事典の未来予想によれば、どうやら昨年には宇宙に1,000人規模が収容できるホテルができ、宇宙観光がブームになっているはずだったらしいですよ。そういえば子どもの頃、そういう未来を夢見てワクワクしていたなあ……。



### 早いものでもう一年・・・

ACF事務局事務職員 渡邊 優子

早いもので、私がACF事務局に来てから1年が経ちました。今まで全く別の業界にいた私にとって教育業界で働くこと、外回りのある仕事をするのは新しい挑戦でした。

ACFではアントレプレナーを持った人材を育成すること、森林に関すること、幼児教育に関すること、様々な業界の方や学生、イベントの参加者と関わります。特に子どもと青年の異世代交流事業、ふくしまキッズ博での小さな子供や親御さんとの関わりは思ってもみないことでした。初めて親子向けのイベントを手伝いに行ったときは、非常に緊張したのを覚えています。

また、私は記録係として、イベントやセミナーがあるごとにカメラマンをしています。レンズ越しに彼らを見て気づいたのは、イベントに参加する学生、参加者の笑顔はもちろん、真剣に取り組む表情がいいなこと。そこに気づいてからは、全体の写真ばかりでなく一人一人にフォーカスを当てた写真を撮るようになりました。

なかなか撮った写真全てを披露する場がなく残念なのですが、イキイキと活動している学生の姿を、このニュースレターやFacebook記事で紹介できればと思いますので、楽しみにしててください！



福島市金谷川1番地 福島大学 地域連携課内  
 アカデミア・コンソーシアムふくしま事務局  
 【TEL】024-548-5295  
 【E-mail】acf@adb.fukushima-u.ac.jp  
 【Twitter】ACFukushima  
 【URL】http://acfukushima.net/

http://acfukushima.net/News/renkeibacknum.html

←バックナンバーはこちらから

【Facebook】http://www.facebook.com/ACFukushima/